

・ハンプは上下方向の変動だが、水平方向の変動ということではスラローム形式はどうか。

・介護をしている最中だが、車椅子でこの辺を歩くと凸凹して、とても歩きにくい。今度、平らでレンガから替えられるということなので、凸凹をなくした設計をぜひお願いしたい。

・10月2日の説明会は知らなかったが、今回の説明会では、事前に各団地の入り口に情報が掲示されて、目に入るような形で情報提供があった。今後も、これからいろいろな段階で実験をしていく中で、広く情報提供をお願いしたい。

・自転車歩行者道の商業施設側の間にある植樹帯を、一部、例えば人工芝にするなりして歩けるようにする。さらに歩行者と自転車の区分の段差を車椅子を押しやすいような形にして、木陰歩きゾーンというものにするはどうか。

・真ん中の緩衝帯は設計では照明しかないが、緩衝帯を広げてもらって、植栽できる場所は低木等を植えて、歩行者道と自転車道を自然に区分する形はどうか。

・レンガ坂は生まれ変わってはいけない。

・ここを残せとか、改良するな、改善するな、改良（改修）するのは反対という雰囲気聞こえるが、もう既に40年たっているという部分では、ますますこれから使いづらさが出てくるのではないかと思う。

・今回、舗装もきちんと替えるべき。さらにその舗装を替えることによって、路上再生ということも可能となり、比較的簡易に、そんなに安くというわけではないが、その場合は改修も可能になる。舗装を替えることで、滑る状態を改修・改良していけるのではないか。

・自転車を分けるという話は非常に有効だと思う。ただ、何人かの方がおっしゃったようにスピードが出る対策について、いろいろな色を使いながら、イメージハンプを出しているものもある。もちろん路面標示をしながら、スピードの注意、それから歩行者との共存ということなども書かれている。そういう例も参考にいただければ、確かに6%という勾配を持っているが、それなりに注意をして皆さんが共存できるんじゃないか。

・ユリノキについて、根張りが非常に浅いというところ、今後、気象庁のいろいろな調査等を見ても、台風が強化され、強風が吹きやすくなってきている点からも、倒木しやすい木になってきている。人間が年を取るように、木もいつまでも健康じゃなくて、木も年を取ることをぜひ皆さんに知ってほしい。

・磁器質のレンガ状のタイルについて、このタイル自体を、特注では作ることができるが、費用面でかなり高い材料。石と同じぐらいの値段だと思う。

・レンガ坂は踊り場が2か所、大きな坂が3枚ある。踊り場と踊り場のレベル差が、国土地理院の地図で調べたが、4メートルある。4メートルの高低差を60メートルから70メートルの距離を使って下りている。実はここに設計の一番最初の問題点があるのではないかと。設計された方は、これだけ自転車が普及することを想像していなかったのではないかと。この町で、今、若い方が非常に増えてきている。子育ての人たちが非常にたくさん増え、仕事に行かれる方が非常に増えた。そういう若い世代の人たちが増えてきて、こういう世代の人たちをすごく大切にしないといけないと思う。その方たちが使っているのが、ほぼアシスト自転車で、アシスト自転車で子どもさんを乗せて移動されている

・スラロームは、多分、無理すれば何とかできるかなとは思っているが、これだけの長い300メートル弱の坂道、直線の坂道を設計したこと自体、問題が大きかったのではないかと。

・計画段階で本当に住民の皆さんに周知ができてきているのか。あるいは計画段階での合意形成は本当に十分なんだろうか。そういう意味で非常に不十分だったのではないかと。市民の方からも専門家の方々からも反対の声が挙がってきていると聞いている。そういうことを考えると、今、工事に着手すべきじゃないんじゃないかと。ぜひ立ち止まり、市民と一緒にもう一度考え直してはどうか。

・雑草があまり生え過ぎないようにしたり、草を刈る頻度を増やしてほしい。

・雪が降ったときの対策を考えてほしい。

・レンガ坂を通らないで自転車が通れる道があればいいと思う。

自転車は車道を走る時代。歩行者と自転車が一緒に道を歩くことも時代的に少なくなってきた。多摩センターのいいところは歩車分離で、安心して小さいお子さんが歩けるといふよさがあるので、何かいい案をもう少し考えられたらありがたいと思う。

・一番大きいのは自転車利用者のマナー。そこがやはり一番大きく、ハードで幾ら頑張っても事故が起きるときは起きるのではないかと。

・ニュータウンの中の歩行者自転車専用道の共存型ということで、ネットワークができていく。これをこれからも安全に快適に享受していくためには、ここで何か利用者としてのマナーとかルールという縛りのような、何かそういった共通の皆さんのムーブメントみたいなものが必要なのではないかと。整備に直接ではないが、併せてそういうものに取り組む必要

があるのではないか

・安全性確保という面では、いろいろできることできないことがあるかと思うが、レンガ坂の自転車の交通量を抑えていくことも一つ取り組む必要があるのではないか。